

検査項目のご説明

分類	検査項目	説明	基準値		
			男性	女性	単位
尿	尿蛋白	腎臓や尿管の障害や機能低下を測定する検査です。	(-)		なし
	尿潜血	尿中に赤血球あるかどうかを調べます。腎臓・尿管・膀胱の病気の有無を知ることができます。	(-)		なし
	尿糖	尿中のブドウ糖の有無を調べる検査です。	(-)		なし
	尿沈渣	尿中の赤血球・白血球・上皮細胞などの固形成分を顕微鏡で観察して病気の有無を調べる検査です。	なし		なし
便	糞便中ヘモグロビン	大腸など消化管からの出血があると陽性になります。	(-)		なし
血液学的検査	白血球数 (WBC)	細菌感染や炎症が起こると増加します。	3,300~8,600		/ μ l
	赤血球数 (RBC)	貧血の有無や種類を知ることができます。	435~555	386~492	$\times 10^4$ / μ l
	血色素量 (Hb)		13.7~16.8	11.6~14.8	g/dl
	ヘマトクリット (Ht)		40.7~50.1	35.1~44.4	%
	血小板 (PLT)	減少するとない出血しやすくなったり、出血が止まらなくなったりします。	15.8~34.8		$\times 10^4$ / μ l
凝固	プロトロンビン時間 (PT)	血液の固まる速さを調べる検査です。	80~125		%
	フィブリン分解産物 (FDP)	血管内の血栓の量を推定します。凝固症候群や肺塞栓症などの血栓を作られる病気を発見するとともに、その重症度を推定します。	5.0以下		μ g/ml
	D-Dダイマー		1.00以下		μ g/ml
全身	総蛋白 (TP)	血清中の蛋白は大きくアルブミンとグロブリンに分けられ、この2つの比率 (A/G比) を見ることで全身の栄養状態や病気の有無を知ることができます。健康を維持するために主に肝臓で作られています。また、腎臓で再吸収されるので代謝異常の目安にもなります。	6.6~8.1		g/dl
	アルブミン (ALB)		4.1~5.1		g/dl
	A/G		1.32~2.23		なし
肝臓・胆管	総ビリルビン (T-Bil)	肝臓の代謝過程で生成され、通常は胆管から胆のうへ運ばれ胆汁となります。肝臓の疾患で増加することがあります。	0.4~1.5		mg/dl
	直接ビリルビン (D-Bil)		0.0~0.4		mg/dl
	アルカリフォスファターゼ (ALP)	肝臓・胆道・骨の状態を見ることができます。肝臓の疾患や骨折などで高値になります。また、成長期にも高くなります。	38~113		IU/l
	AST (GOT)	肝臓・心臓・骨格筋などの細胞に多く含まれる酵素で、臓器障害により細胞内から血液中に出てくるため、その度合いによって臓器の状態を見ることができます。	13~30		IU/l
	ALT (GPT)		10~42	7~23	IU/l
	γ -GT (γ -GTP)	肝臓・胆道の状態を見ることができます。肝障害やアルコール常飲者で高値を示すという特徴があるため、アルコール性肝障害の指標となります。	13~64	9~32	IU/l
	乳酸脱水酵素 (LDH)	肝臓・心臓・肺・血液・骨格筋など多くの臓器に含まれる酵素で、これらの臓器障害により高値となります。特に肝疾患・心筋梗塞・悪性腫瘍などで高くなります。また、妊娠により高値になることもあります。	124~222		IU/l
	LAP	胆管の状態を見ることができます。	30~75		IU/l
	コリンエステラーゼ (CHE)	肝臓で生成される酵素で、肝臓の状態を見ることができます。肝疾患 (特に肝硬変) で低値となり、栄養過多や脂肪肝では高値となります。	240~486	201~421	IU/l

分類	検査項目	説明	基準値		
			男性	女性	単位
心臓	CK (CPK)	心筋の状態を見ることができます。心筋梗塞などで高値を示します。激しい運動のあとでも高くなります。	59~248	41~153	IU/ℓ
	CK-MB		10.0以下		ng/mℓ
腎臓	尿素窒素 (BUN)	体内の蛋白質代謝によって生じるものです。腎臓がどのくらい老廃物を排泄処理しているかの目安となります。腎機能が低下してくると高値となります。	8.0~20.0		mg/dℓ
	クレアチニン (CR)	蛋白質代謝以外の老廃物の一種で、腎機能の指標となります。BUNより早期に高値となります。	0.65~1.07	0.46~0.79	mg/dℓ
	尿酸 (UA)	細胞の新陳代謝によって生じるものです。痛風ではこれが手足の関節などのたまり激痛を引き起こします。腎機能の低下やアルコールの過剰摂取・美食などにより高値となります。	3.7~7.8	2.6~5.5	mg/dℓ
脂質	総コレステロール (T-CH)	血管の強化・維持など体にとって重要な役割を果たしていますが、多すぎると血管の内側に付着して動脈硬化・心筋梗塞・脳梗塞などの原因となります。長期的に動物性食品の摂りすぎで上昇します。	142~248		mg/dℓ
	中性脂肪 (TRG)	身体のエネルギー源として使用されます。摂取しすぎると肥満や脂肪肝・動脈硬化など、さまざまな成人病の原因となります。	40~234	30~117	mg/dℓ
	LDLコレステロール (LDL-C)	LDLは血管壁にたまり動脈硬化や心筋梗塞発症の危険因子とされ「悪玉コレステロール」と呼ばれ、HDLはたまったLDLを取り除く「善玉コレステロール」と呼ばれています。2つのバランスや全体の量（総コレステロール）、中性脂肪などから上記疾患の有無や程度を知ることができます。喫煙・肥満・糖尿病などでHDLは低下します。	65~163		mg/dℓ
	HDLコレステロール (HDL-C)		38~90	48~103	mg/dℓ
電解質	ナトリウム (Na)	水分やミネラルのバランスで、栄養状態や腎臓の状況を見ることができます。カルシウムや無機リンでは、骨や副甲状腺の状態も知ることができます。利尿剤を服用している時には、カルシウムやマグネシウムが低くなる場合があります。	138~145		mEq/ℓ
	カリウム (K)		3.6~4.8		mEq/ℓ
	クロール (Cl)		101~108		mEq/ℓ
	カルシウム (Ca)		8.8~10.1		mEq/ℓ
	無機リン (IP)		2.7~4.6		mEq/ℓ
	マグネシウム (Mg)		1.5~3.0		mg/dℓ
膵臓	血清アミラーゼ (S-AMY)	膵臓・唾液腺の状態を見ることができます。	44~132		IU/ℓ
	尿中アミラーゼ (U-AMY)		37~849		IU/ℓ
血糖関連	ヘモグロビンA _{1c} (NGSP)	血液中にブドウ糖が多いと高くなります。1~2ヶ月前の平均血糖値を知ることができます。	4.9~6.0		%
	血糖 (Glu)	血液中のブドウ糖は、身体のエネルギー源として重要で一定に保たれていますが、糖尿病により高くなります。食後の検査では高値になるため、通常は空腹時に採血を行いません。	73~109		mg/dℓ
貧血	血清鉄 (Fe)	貧血の有無や種類を知ることができます。	40~188		μg/mℓ
	TIBC		250~380	250~450	μg/mℓ
炎症	C反応性蛋白 (CRP)	炎症性疾患の有無やその程度を知ることができます。	0.00~0.14		mg/dℓ
	赤血球沈降速度	感染症・リウマチ・膠原病など慢性の炎症で上がります。	10以下	15以下	mm/1h

※検査結果に関しては、電話でのお問い合わせは一切お受けできません